

ありがとう6年生

～全校での最後の思い出づくり～

3月7日（金）、体育館で“6年生を送る会”を、その後るるパークへバスで移動し、“お別れ遠足”を行いました。

6年生を送る会を進行するのは、6年生からバトンを受けた3～5年生で組織する新運営委員会の子どもたちです。会の冒頭、「この1年間、お世話をしてくれた6年生に感謝の気持ちを伝えましょう」「思い出をいっぱい作りましょう」と、緊張しながらも大きな声で呼びかけ、会がスタートしました。

ゲームの中で、“じゃんけんピラミッド”というゲームをしました。これは、赤白対抗のゲームで、相手チームの子どもたちが関所となり、4列ある関所役に連続してじゃんけんに勝てば、ゴールにたどり着くというものです。みんな仲よく遊んで、6年生にも思い出を深めてもらおうという趣旨のようです。

まずは、白組が挑戦です。関所役の赤組の子どもたちは、4人・3人・2人・1人と4列にピラミッド型に並びます。並び中で、低学年の子がどこに立ってよいかわからず戸惑っています。その様子に気づいた6年生が、「低学年はここ」と、手招きして立ち位置をやさしく教えてあげています。さすが、目配りと気配りができる最上級生です。

ゲーム開始。「最初はグー。じゃんけんぽん！！」と元気な声に合わせて、白組対赤組のじゃんけんが始まりました。4人連続してじゃんけんに勝つのは難しく、途中で負けてしまい、再び最初からスタートする白組の子は、一人や二人ではありません。そんな中、赤組の関所を通過してゴールする白組の子が現れてきました。連続4回じゃんけんに勝ち、見事全関所クリアした人です。



交代し、赤組が挑戦する番です。同じように「じゃんけんぽん」の声に合わせ、じゃんけんが繰り返されます。

あと、一回じゃんけんに勝てば、全ての関所を通過しゴールのところ、最後の関所でなかなか勝つことができません。阻止した白組の6年生は、「やー！」と声とともに両手を挙げ、とてもうれしそうです。

この勝負、最終的には白組は6人、赤組は5人ゴールし、白組の勝ちとなりました。

ゲームを楽しんだ後は、6年生へのプレゼント渡しです。事前に1～5年生がランチルームに集まり、お世話になった6年生へメッセージを書きました。下級生たちは、「この

1年間、6年生とどんな思い出があったかな・・・」と、“一輪車の練習”“児童総会”“そうじ”“休み時間”等、さまざまな場面の中での自分と6年生との関わりを思い出し、メッセージにしたためました。その中で、6年生がいかにかに下級生のために力を貸し、支えてくれたかを改めて感じ、感謝の思いを抱いていたようです。

会の最後には、6年生が、“かぼすたろう”の劇を披露してくれました。“ももたろう”のお話をもとに、かぼすたろうがいのししととんびとともに鬼退治に行くお話です。役割やせりふを自分たちで考えて練習してきたのだそうです。アイデア満載で、大変楽しいものでした。



6年生を送る会が終わり、いよいよ遠足に出発。バスに

揺られ、るるパーク正面玄関ゲートに到着。屋内つばき園や花昆虫館を見学した後は、ダム湖沿いの道を歩き、東側ゲートに近い園内で一番大きい遊具のある“レイクサイドキャッスル”に向かいました。私も子どもたちと一緒に歩きながら、「今日、お菓子何を持ってきた？」「チョコレート！」と、持ってきているお菓子のことや自分が好きなお菓子のことについて話がはずみます。



レイクサイドキャッスルには、さまざまな種類の滑り台やロープのつり橋、あみあみトンネルなど、いろいろな遊具が集合していて、その名の通り、遊具でできたお城のようです。お弁当の時間以外は、この魅力的な遊具で、登ったり、下りたり、渡ったり、滑ったりしながら、みんなで遊具の面白さを共有していた子どもたちです。



今後、今いる子どもたち21人で一緒に過ごすことは、残念ながらなくなってしまいます。だからこそ、この日の楽しさや喜び、そして、これまで当たり前のように一緒に過ごしてきたみんなとの思い出を、大事にしてほしいと願っています。